

献立ひとくちメモ

1月24日(火)



全国学校給食週間のお話です。

明治22年から学校給食の取り組みは全国各地へ広がりましたが、戦争の影響で食料が不足し、一時期実施できなくなってしまいました。戦後、子どもたちの栄養状態を改善しようと、アメリカのLARA（アジア救援公認団体）という民間団体から贈られた小麦粉などを使い、昭和25年ごろ給食が再開されました。昭和29年には「学校給食法」という学校給食に関する法律ができました。

今日は昭和25年ごろの献立が登場します。揚げパンの歴史は諸説ありますが、当時のパンはかたかったそうです。そこで、調理員さんが子供たちに喜んでもらうため、油でパンを揚げてやわらかくし、砂糖をまぶす方法を考案したといわれています。